



第61回日本人間ドック学会学術大会



去る11月26日・27日、第61回日本人間ドック学会学術大会がオンラインで開催され、当クリニックから以下の4題を発表いたしました。

- ①人間ドック検査項目への抗ヘリコバクターピロリ IgG抗体測定導入後の歩み …看護部 山田 香子
 - ②当院受診者に対する健康講座の運営 …健康相談室 根本 梓
 - ③高濃度乳房が乳癌検診の精度に与える影響について …放射線部 中澤 浩子
 - ④LOX-index と人間ドックの判定結果と生活習慣の関連性 …検査部 春山 光
- 今回は上記の①について、発表した内容を掲載いたします。

人間ドック検査項目への抗ヘリコバクターピロリ IgG抗体測定導入後の歩み



当クリニックでは、胃がんリスク低減を目的にピロリ菌除菌を推進するため、2014年4月から人間ドックの基本項目に抗ヘリコバクターピロリ抗体（以下、抗HP抗体とする）の測定を導入しています。抗HP抗体陽性の場合には除菌の必要性を説明し、希望する場合その場で除菌薬を処方するか、またはパンフレットを渡し、速やかに除菌治療へ誘導できるシステムを作り上げました。今回は、抗HP抗体検査導入後の除菌受診率の変化を比較・検討することで、人間ドック項目への抗HP抗体検査導入の意義を検討しました。

対象は、2014年度に当院人間ドックで抗HP抗体検査を受け、2019年度までの間に当クリニックを受診し、抗体検査の経過を追うことができた11,111名です。2014年度に実施した抗HP抗体検査では11,111名中、陽性者の割合は42.7%でした。そのうち陰性へ転化した人は20.2%で、陽性者の約半数が陰性へ転化しています。（図1）

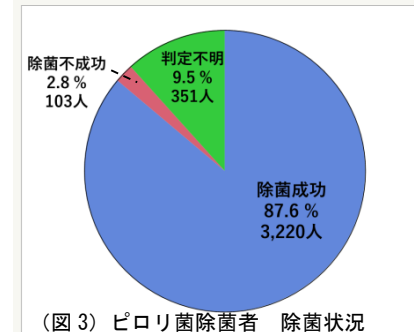
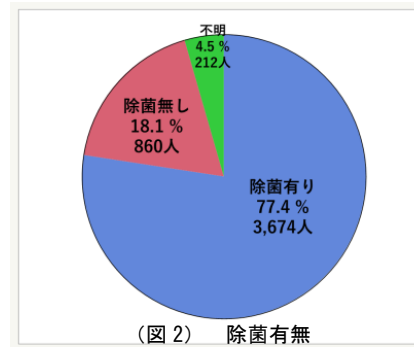
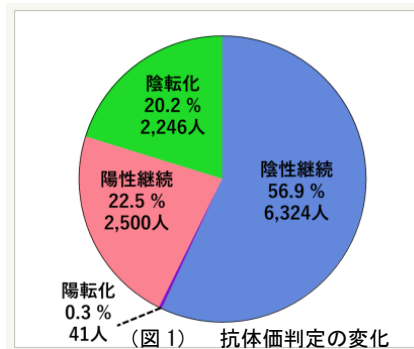
抗HP抗体陽性者の中で、除菌治療を受けた受診者は77.4%でした。除菌しなかった方の中には、抗生剤アレルギーにて除菌治療が行えない受診者も含まれており、専門医への案内を勧めていくことが必要と考えます。（図2）

除菌治療を受けた人の中で、除菌成功者の割合は87.6%でした。除菌不成功者の割合は2.8%とかなり低くなっていますが、除菌不成功者へは3次除菌が行える専門医へ案内を勧めていく必要があります。（判定不明者は「判定検査を受けていない」または「判定結果を聞きに行っていない」という方が含まれます。）（図3）

また、2014年度の抗HP抗体陽性者は42.7%でしたが、2019年度の抗HP抗体陽性者は22.8%へ減少していました。

以上のことから、人間ドックでの抗HP抗体検査は、ピロリ菌について啓蒙することができ、ピロリ菌除菌への誘導に繋がっていると考えられます。

看護部 山田 香子



新型コロナウイルス感染症の検査について



ウイルスは、遺伝子（核酸：DNAもしくはRNA）をタンパク質の殻（カプシド）が取り囲んだ構造を持つ病原体で、新型コロナウイルスの遺伝子はRNA型です。ウイルスが人間に感染すると体内の免疫機構が作動し、ウイルスに対する「抗体」と呼ばれる様々な種類のタンパク質が作られます。

今回は、新型コロナウイルスの各種検査法について解説します。

検査に用いられる検体

<ウイルスの構成成分を調べる検査>

- 鼻咽頭ぬぐい液 : 鼻の奥深くから医療従事者が採取。ウイルス量が最も多い。
- 唾液 : 自己採取。ウイルス量がやや少ない。
- 鼻腔ぬぐい液 : 10月より新たに使用可能。医療従事者の管理下で自己採取（鼻の孔から2cm程度）。ウイルス量は鼻咽頭ぬぐい液とほぼ同等。

<体内で作られた抗体タンパク質を調べる検査>

- 血液 : 通常の採血と同じ。

検査法

<ウイルスの構成成分を調べる検査>（現在の感染状況を診断）

- 核酸PCR検査 : ウイルスの遺伝子（RNA）を測定。最も高感度で微量のウイルスでも検出可能。遺伝子の量を増やす工程があり時間がかかる（約4時間）。専用の機器が必要。
- 抗原検査 : ウイルスの殻タンパク質（カプシド）を測定。タンパク質は増やせないため、ウイルス量が少ない場合は偽陰性となることがある。短時間で検査可能（約1時間）。高感度の「定量」検査と低感度の「定性」検査の2種類がある。
 - ・抗原定量検査 : 検査試薬との反応で発生する蛍光を測定。専用の測定機器が必要。PCRに比べて感度がやや劣る。
 - ・抗原定性検査 : 簡易キットに検体を滴下し、色の変化を目で見て判定。キットがあればどこでも実施可能。感度が低いため唾液検体には使用不可。

<体内で作られた抗体タンパク質を調べる検査>（過去の感染状況を評価）

- 抗体検査 : 血液中の抗体を測定。抗体には感染歴を示すだけのタイプと、ウイルスの働きを抑えて感染を防御出来るタイプがあり、感染防御機能を持つ抗体は「中和抗体」と呼ばれる。ワクチンは中和抗体の獲得を目的として接種する。巷では様々な抗体検査が行われているが、必ずしも中和抗体を測定している訳ではなく、感染歴を示す抗体を調べているだけの場合もあるため注意が必要。最近報告された国内の研究では、感染後半年の時点でも無症状・軽症者で97%、中等症・重症者で100%、血液中に中和抗体が存在していた。

大宮シティクリニック 副所長 森山 優



健康相談室だよりは当クリニックホームページにも掲載しております。バックナンバーもご覧いただけます。

** ご意見・ご要望等ございましたら、遠慮なくご連絡ください **

ホームページ URL : <http://www.omiyacityclinic.com/article-letters/>

ご意見・ご感想 : sodan@omiyacityclinic.com

